

「名門復活」と「向上進取の精神と高い志の涵養」を目指し、全教職員による組織的取組を推進してきた、今年度の結果である。今年度の結果を検証し、改善を加え、次年度へ反映させ、学校全体で取り組んでいく。

赤文字は昨年度比で上昇した数値を示す。

2年度の数値目標		2年度成果	31年度 ←	30年度 ←	29年度	
①	国公立大現役合格者数	5名以上	4名	2名 ←	3名 ←	4名
②	難関位私立大（早慶上理）現役合格者数	5名以上	5名	3名 ←	0名 ←	2名
③	上位私立大（GMARCH等）現役合格者数	55名以上	62名	50名 ←	37名 ←	36名
④	日東駒専現役合格者数	60名以上	63名	56名 ←	57名 ←	57名
⑤	センター試験受験者数	196名以上	199名	204名 ←	177名 ←	204名
⑥	平日の家庭での予習・復習時間 1年生の平均	90分以上	52分	50分 ←	60分 ←	65分
⑦	平日の家庭での予習・復習時間 2年生の平均	120分以上	51分	45分 ←	55分 ←	60分

(1) 教育活動の目標と方策に関する評価 ※内部評価はA満足B概ね満足C改善が必要な3段階

項目	内部評価	成果と課題	改善策
学習指導 進路指導	1	<p>[成果] 大学受験を意識した指導は定着しつつある。2名配置のJET青年とALTを活用した効果的な授業展開を行い、英検対策の充実を図った。</p> <p>[課題] 大学受験に向けた組織的取組の再構築にはまだ至っていない。</p>	各教科内で国公立大学や難関私立大学等受験への対応を検討・改善する研修の充実を図る。また、教科ごとに模擬試験分析を行い、授業に反映させるとともに、大学入試問題を分析し、指導内容の更なる改善につなげていく。
	2	<p>[成果] ケース会議、模擬試験分析会で、生徒個別の状況の分析を行うことを行うことできるようになった。</p> <p>[課題] 全教職員による共通認識に至るまでにはもう一歩。より一層生徒一人ひとりの情報の共有及び情報交換を行うこと。</p>	進路指導部がケース会議や分析会の内容を改善し、資料や情報を収集し、全教職員の意識を高め、生徒一人ひとりの細かな指導に役立つ情報を共有し、全員体制で生徒を指導する。
	3	<p>[成果] 短くなった長期休業を有効に活用するとともに動画の配信による講習にもチャレンジした。</p> <p>[課題] 学期中や土曜日を活用した講習実施に対する共通理解。</p>	各教科、学年及び部活動顧問が共通認識を持ち、組織的な補習・講習体制を構築する。
	4	<p>[成果] 国語科・英語科の検定受検推奨に向けた取組、継続した検定指導が行われた。</p> <p>[課題] 不読率の減少を目指し、読書活動の更なる推進を図る。</p>	読書の習慣を身につける取組を模索すること。各種検定受検を積極的に働きかける。
	5	<p>[成果] 養護教諭、SC、各学年担当との情報交換が定期的(学期毎)に行われ、情報共有ができた。</p> <p>[課題] 会議で共有した情報を、学年内、教科内での共有が十分でない。</p>	定期的な情報共有が行われ、全教職員が統一した指導方法を共有する。課題が発生したらすぐ情報共有し、速やかに対応する。
	6	<p>[成果] 外部団体の協力のもと、自分自身の現在、未来を考えさせる機会を持つことができた。</p> <p>[課題] 生徒自身の将来に対する意識を高め、考えさせる。</p>	自分自身を見つめ直す機会を意識的に増やし、目先のことより、未来を考えさせるためのキャリア教育の充実を図る。
	7	<p>[成果] 感染症のオリンピック・パラリンピックに対する影響について考える機会を与えることができた。</p> <p>[課題] ボランティアマインドを身につける取組の減少。</p>	教科指導にとどまらず、学校行事や部活動を通じた組織的なボランティアマインドの育成を図る。

生活指導	1	時間遵守の指導、挨拶の励行の徹底、頭髪の染色、化粧や装飾品等をさせない指導等、基本的生活習慣を確立する。	B	[成果]生活指導部、学年、教科担当が連携して身だしなみ指導を組織的に実施。落ち着いた学校になりつつある。 [課題]教員の意識と指導に対する温度差。	学校全体として取り組む意識を高めるとともに、教員ごとの指導の温度差を無くすこと。また統一した指導基準を理解し指導すること。
	2	授業規律をはじめとした学校生活のルール・マナーを遵守させるため、生活指導を全校体制で行う。	B	[成果]チャイム始業・終業は徹底され、規範意識の向上に繋がっている。 [課題]二学期後半からの遅刻の増加が克服できていない。	遅刻(平均)1日1学級一人未満を目標に、時間を守る習慣を徹底させる。生活指導部と学年が効果的な遅刻指導を組織的に実施すること。
	3	いじめや体罰は絶対にさせない見過ごさない校内体制を構築し、生徒や保護者が安心・安全な学校生活を保障する。	A	[成果]いじめアンケートや体罰アンケートの結果に基づき、生徒の状況を把握し丁寧な対応を行った。 [課題]継続した研修を実施し、教員の高い意識を継続させること。	今後も、継続した研修を実施し、全教職員体制で取り組んでいく。
特別活動 部活動	1	部活動を奨励し、第1学年において全員が部活動に所属し、積極的に活動する指導体制を構築する。	B	[成果]第1学年全員加入は定着、部活動加入率は、学校全体で80%超を維持している。 [課題]活動できる機会に恵まれなかった今年度、第2学年以降の継続加入と継続活動。	活動する機会をより多く提供できるような環境を整え、積極的に活動させること。日常の学習と学校行事と部活動をバランスよく活動させる。
	2	学校行事や委員会活動を充実させ、社会性や帰属意識の育成を図るとともに学校内外に貢献する姿勢を醸成する。	B	[成果]生徒主体による実行委員形式の学校行事や生徒会・委員会活動が定着している。 [課題]生徒主体の活動ができる機会が少ない。	生徒主体の活動機会を増やすとともに、学校外での活動に積極的に参加させ、社会性を育成する。
防災教育 安全教育	1	災害から自らの命を守るために必要な「自助」の能力を身に付けさせ、社会貢献など「共助」の精神を育成する。	B	[成果]宿泊防災訓練にかわる防災訓練を3月に実施、訓練内容を工夫し、生徒の防災意識を高めた。年4回、場面に応じた避難訓練を実施。 [課題]地域と連携した防災訓練の充実を図る。	次年度以降、地域連携を強化し、「自助」「共助」の意識の醸成を図っていく。
	2	学校安全計画年間指導計画に基づき、登下校時の交通安全と災害等に対応した安全指導を推進する。	A	[成果]生活指導部を中心として、指導が行われ、大きな事故は発生していない。 [課題]登下校時の事故、特に自転車通学者の軽微な事故を無くす。	次年度以降も登下校時の安全指導の充実を図っていく。特に、自転車利用時の安全指導を充実させる。
体力向上 健康増進	1	体育授業、部活動、学校行事等あらゆる機会を捉えて、体力及び運動能力の向上を全校で取り組む。	B	[成果]体育の授業で、工夫を凝らしながら、からだづくり運動に取り組んでいる。 [課題]運動する機会の減少、運動部活動の活性化。	運動できる機会をより多く提供できるように環境を整え、体力向上の取り組みの充実を図っていく。
	2	東京都体力テストの結果を踏まえ、普段運動をする習慣のない生徒に、効率的に運動量を確保する取り組みを推進する。	B	[成果]工夫を凝らしながら、各種の取り組みを推進した。 [課題]学校全体として体力向上を図る。	体力向上の意義を理解させ、取り組みの充実を図り、東京都体力テストの平均値を上回る項目を増やす。
	3	歯・口の健康づくり研修会など、健康づくりを推進するため、口腔衛生に関する指導を重点的に継続して取り組む。	A	[成果]健診結果を整理し、結果を丁寧に還元し、それに基づく個別指導を実施。 [課題]歯・口の衛生指導の継続。	引き続き、きめ細かい丁寧な指導を継続する。
募集広報	1	ホームページの学校紹介分野を充実させる。学校から地域・保護者等への最新の情報発信に努める。	A	[成果]更新回数を増やし、今年度見学会、説明会で伝えた内容をHPに掲載するなど充実させた。 [課題]組織的なHP運営と継続した情報発信。	次年度もタイムリーな更新を行い、きめ細かい情報発信に努めるとともに、HP運営の組織化を図り、内容を充実させる。
	2	本校を第一志望校として目指してもらえよう、部活動等の広報や、中学校との連携事業を推進する。	B	[成果]学校説明の実施方法を工夫し、感染対策に対応した説明を行った。校舍改築の影響を最小限にとどめ、志望倍率は維持できた。 [課題]中学校との連携(出張説明、出前授業)の充実を図る。	魅力的な学校づくりの工夫とともに、外部への情報発信を一層強化する。

学校経営 組織体制	1	教科主任を設置し、教科内における学習指導を組織的、効率的に実施する。	A	[成果] 授業改善につながる模試分析、公開授業、それに伴う研究協議を実施した。 [課題] 教科間の連携や各教科の課題を把握すること。	各教科の模試分析、教科ごとの公開授業の継続を通じた学習指導の充実を図っていく。
	2	各種会議や委員会を定期的に開催し、課題解決を図る。	A	[成果] 会議時間をあらかじめ設定し、各種の取組みを推進した。会議の事前準備を推進し、会議の効率化を図った。 [課題] 計画的な検討、会議の運営。	常に先の見通しを立て、適切な会議運営、効率性をより高める工夫を行う。
	3	教師、生徒における暴力行為や暴言、すべての体罰の根絶を図る。	B	[成果] 学校としての最重要課題として、全教職員で取り組むことができた。 [課題] 教師としての自覚を持ち、組織的に生徒対応を行うこと。	継続した適切な指導を実施し、無事故を続けていく。
	4	スクールカウンセラーとの連絡会を随時実施し、問題の共有化による課題解決を図る。	B	[成果] SC、養護教諭、当該学年との連携は年々充実し、生徒状況の共有を図ることができた。 [課題] 学校全体での共有を図る。	保健環境部を中心として、SC連絡会を定期的に計画し、校内で組織的対応を推進する。
	5	家庭、地域と連携し、相互協力のもと健全育成を図る。	B	[成果] 非常時における家庭との連絡体制が整い、家庭との情報共有・連携が行われた。 [課題] 家庭との連携の継続と地域との連携を強化する。	地域に開かれた学校づくり。面談や学校だよりの充実を図り、家庭との連携を推進する。
	6	経営企画室の業務進行管理を機能的に行い、都民の信頼に応える。	A	[成果] 情報提供や課題の共有が円滑に行われ、安定した校務運営が行われた。 [課題] 改築や校舎移転、予算執行等、より一層の連携の充実を図る。	業務の進捗管理、連絡及びチェック体制の強化を図るとともに、教育職と行政職の一体感をより高め、協力体制を強化する。

(2) 重点目標と方策 ※内部評価はA満足B概ね満足C改善が必要な3段階

項目	内部評価	成果や課題	改善策
① 教科指導目標の策定と組織的な目標管理による教科会主導の国公立大や難関私立大を意識した教科指導を推進する。	B	[成果] 大学進学を意識した指導目標の設定が行われ、教科指導の充実が見られた。 [課題] 校内における連携と共有。	生徒一人ひとりの進路基部、学習状況を全教員で把握し、教科指導の充実を図る。
② 全教職員(全教科)参加による組織的な模試分析会や進路検討会(ケース会議)を各学期1回以上実施する。	B	[成果] 模試分析会や進路検討会で、教科の課題や生徒一人一人の状況が把握される内容に改善された。 [課題] 教科内で把握した課題を改善した指導の実践と、生徒個人に対応した指導の改善。	より踏み込んだ課題の把握と改善方法の研究を行い、速やかに教科指導、進路指導に生かしていく。
③ 長期休業日中に進学対策及び学力向上のための講座を80以上、組織的に実施し、延べ3500名以上の受講者とする。	B	[成果] 短い長期休業のため十分な講座数は設定できなかったものの、動画を配信するなど、工夫が見られた。 [課題] 多くの教員が補習・講習に関わること。	教科担当と部活動顧問の共通理解を図り、学習と部活動を両立させる体制を整える。
④ 入学当初の大学進学希望を維持向上させ、国公立大5名、難関私立大(早慶上理)5名、上位私大(GMARCH等)合格者数55名以上、日東駒専合格者数60名以上、センター試験受験196人、大学進学率75%以上を目指す。	A	[成果] 一般受験まで頑張らせる指導が行われ、国公立大4名、早・理大5名、上位私大62名合格と成果が出た。 [課題] 一般受験で希望進路を目指す指導の継続。	当初の大学進学希望を維持継続させる教科指導、進路指導を充実させ、目標達成を目指す。

⑤	生活指導指針に基づく規範意識の育成では、身だしなみの指導を充実させ、高校生活にふさわしい服装とし、頭髪の染色、化粧を行わせない指導、不必要な装飾品を装用させない指導を行い、落ち着いて学習や部活動に取り組める環境を醸成する。儀式的行事では、標準服を着用させる。学年集会等の集団での行動を迅速且つ静粛・厳正に行い、はじめのある学校生活を構築する。	A	〔成果〕生活指導部と学年の協力体制が整い、身だしなみな落ち着き、安定した学習活動が行われている。 〔課題〕二学期中盤からの遅刻の回数が増加していること。	年間を通した身だしなみ、時間厳守の指導の徹底を学校全体で体制を整え、規範意識の向上を図っていく。
⑥	授業規律を遵守し、生徒の学習環境・学習習慣を整える。生徒が自ら学習する意欲を高め、自宅学習時間を第1学年90分以上、第2学年120分以上を確保するために、授業時間ごとの宿題の出題、小テストを継続して実施する。	C	〔成果〕授業規律は守られ、落ち着いて学べる学習環境は維持されている。 〔課題〕自宅学習時間がしっかり確保できていない。	自宅学習時間を増加させるための生徒の意識改革と課題の工夫に各教科で取り組み、生徒自らの学習意欲を高める。
⑦	遅刻者の防止に努める。遅刻防止キャンペーン、各学期の遅刻指導(複数回)を実施する。	B	〔成果〕三年生の遅刻の減少により、全体数も大きく減少した。 〔課題〕二学期中盤から2・3年生の遅刻の数が増えていること。	家庭との連携を図りつつ、時間厳守の指導の工夫を行い、継続した指導を実施する。
⑧	登下校時における危険箇所の確認や自転車の運転マナーの向上を図り、自転車事故0(ゼロ)を目指す。交通安全、特に自転車を中心とした二輪車利用に関する交通安全教育を充実させるため、保護者や地域と連携し交通安全教室を開催する。	B	〔成果〕交通安全教室や、登校指導の実施により大きな事故もなかった。 〔課題〕道路の斜め横断や自転車の事故。	自転車保険加入の徹底とともに、安全指導の徹底を継続して行っていく。
⑨	部活動加入率85%以上とし、関東大会、都大会への出場や、高文連のコンクール等への出場を実現する。また、第2学年においては「よさこいin府中」への参加を通し、地域貢献の心と集団や社会の一員として、自主的、実践的な態度を育てる。	B	〔成果〕部活動加入率は、80%以上を維持しているものの、今年は十分な活動ができる環境が整わなかった。 〔課題〕感染症の影響で、地域との触れ合う取り組みがすべてなくなってしまったこと。	生徒の活動が十分に行われる環境を整え、生徒が活躍できる場を設ける。
⑩	より高次の自己実現や進路希望を実現していくため、各分掌、各教科の横断的かつ有機的な取組を通して、学校組織全体でキャリア教育を推進する。本校学力スタンダードを策定し、校内での統一指針に基づき指導内容・方法を見直すとともに、生徒が基準到達するまで学習指導を繰り返し行い、卒業まで必要な学力を確実に身に付けさせる。	A	〔成果〕生徒の自己実現や進路希望の実現を目指す指導が統一的に実践されている。 〔課題〕1年、2年からの補習・講習の充実。	生徒の希望進路の実現を図るために、教員全身体制で指導に当たる体制を強化する。
⑪	募集対策強化を図り、全校体制で各種学校説明会に対応する(来校数2600組以上、HP更新100回以上)。	A	〔成果〕今年度の状況下において、見学会・説明会の実施方法を工夫し、例年並みの応募状況を維持した。 〔課題〕感染症対策時における個別相談。	見学会、説明会実施時の状況に臨機応変に対応し、実施会場や実施方法を工夫し、学校からの情報提供を工夫する。
⑫	体育祭・合唱祭での参観保護者数、文化祭での一般来場者数を合計4000名以上とする。	—	今年度は、感染症対応のため、体育祭・文化祭は実施されなかった。	感染症対策をとった、新たな実施方法・内容を検討し、新たな形の学校行事を模索する。
⑬	授業や体育的行事及び部活動を通じて、生徒の体力向上を図り、生涯にわたって心身ともに健康な生活を送ろうとする態度を育成するため、東京都体力テストを実施し、保健体育科を中心として全校体制で体力、運動能力の向上を図る。	B	〔成果〕限られた時間の中で、工夫されたトレーニングが実施された。 〔課題〕運動する機会が減少したことによる更なる運動嫌いの増加。	運動できる環境を整え、運動する機会を増やし、体を動かす楽しさを体験させる工夫を行う。
⑭	読書週間の年間3回実施や学年単位での書評合戦の実施により、読書活動を充実させ、言語能力向上を図る。	B	〔成果〕図書委員会主催の校内書評合戦の実施は、読書活動の啓発として効果的であった。図書館の環境構築は、委託業者と連携して適切に行われた。 〔課題〕本を読まない生徒の割合が減少しない。	国語科のみならず、全教科で本を読む取り組みを実践していく。
⑮	校内美化を常に心がけ、毎日の清掃活動の他、各学期2回以上の大掃除を全校体制で実施し、衛生的な学習環境を整える。	B	〔成果〕新しい仮設校舎での環境維持はできていて、学習環境は整っている。 〔課題〕ごみの更なる減量。	感染防止のための教室環境を維持するために衛生的な環境を維持する。
⑯	いじめや体罰、暴力行為の根絶のため、校内服務事故防止研修会を年間3回以上実施する。	A	〔成果〕服務事故防止研修を定期的に実施するとともに、職員会議での徹底も継続した。 〔課題〕研修時間の確保。	継続した研修を実施し、事故のない学校現場を確立する。

⑰	年間防災教育活動計画に基づき、宿泊防災訓練を含め計4回の防災避難訓練を実施する。被災後の共助について、地域と連携した指導、訓練を行い、主体的行動力を身に付けさせるとともにリーダーの育成を図る。	B	〔成果〕宿泊防災訓練にかわる防災訓練を3月に実施し、仮設校舎での訓練を実施した。 〔課題〕今年度は地域と連携する機会が作れなかった。	来年度は、地域と連携を強化した防災訓練を実施し、「自助」「共助」の意識を醸成する。
⑱	スクールカウンセラーと教育相談制度を確立し、通常の教育相談と併せ、特別支援教育の推進を図ることにより、個別指導計画等に基づく指導・支援を充実させ、定期的に調査等を行い、生徒の健康維持や心と体のケア、状況把握と対応、自殺防止に当たる。	A	〔成果〕スクールカウンセラーと養護教諭、学年担当との連携が十分に取れてきて、生徒の状況把握ができている。 〔課題〕定期的な情報共有の場の設定。	学期に1回以上のSC連絡会の実施、特別支援教育に関する研修会を実施し、校内体制の一層の充実を図る。
⑲	ボランティアマインドや障害者理解、スポーツへの関心を高め、公共の精神、国際感覚等を学び、日本人としての自覚と誇りを身に付けさせ、全教育活動を通して2020東京オリンピック・パラリンピック及び大会後のレガシーを見据えた教育を推進する。	B	〔成果〕各教科においてオリンピック・パラリンピックに関する話題を提供し、関心を高めさせた。 〔課題〕障害者理解に関する取組。	障害者理解、公共の精神、国際感覚等を学ぶ機会を授業やホームルーム等で積極的に取り入れる。
⑳	家庭と学校の連携を充実するため、保護者会の適時開催及び内容の充実、保護者出席数の増大を図る。また、学年通信等、各種配布物について、極力ホームページに随時公開し、家庭と学校での情報の共有化を図る。	B	〔成果〕今年度は、集合形式の保護者会、動画配信の保護者会など、状況に応じた情報提供を実施した。 〔課題〕参加者の数の減少、タイムリーな情報提供。	学校の様子を提供できる通信や、配信を心掛け、タイムリーな情報提供を図る。
㉑	個人情報の徹底管理を図るため、毎月クリーンデスクの日を定め、机上整理を確実に行う。	B	〔成果〕クリーンデスクは概ね良好である。また、個人情報の管理については、施錠管理が徹底されている。 〔課題〕身の回りの整理が十分でない箇所も散見される。	事故防止の観点からも、クリーンデスクの徹底と、個人情報の管理の徹底を強化する。
㉒	各分掌等で年度当初の目標設定と毎月の進捗管理による組織力強化を図る。各種事務処理プランを活用し、経営企画室の業務進行管理を一層強固なものにする。ライフ・ワーク・バランス実現に向けて、各種会議の上限時間を設定する等、時間短縮、業務の効率化を図る。	A	〔成果〕分掌業務進捗管理は、分掌主任が確実にやっている。 〔課題〕会議回数や会議時間の減少を図る。時期により在校時間で上限を超える。	業務の効率化を図り、計画的な会議運営や進捗管理を意識して行う。
㉓	生徒が安心して学業に専念できる学習環境を整備するため、仮設校舎での生活プランを検討する。	A	〔成果〕仮設校舎への移転も滞りなく行われ、事前に検討した生活プランに基づき、学習環境が整備されている。 〔課題〕仮設校舎ならではの騒音等	引き続き、仮設校舎での学習環境を整え、安全・安心な環境を維持していく。